

(様式3号)

## 学 位 論 文 の 要 旨

氏名 井上 智顕

〔題名〕

通信指令員による院外心停止に対する口頭指導の効果-日本救急医学会院外心停止レジストリの解析-

〔要旨〕

本研究の目的は、通信指令員による心肺蘇生法(CPR)の指示が院外心停止(OHCA)の転帰を改善するかどうかを明らかにすることである。2014年6月から2019年12月に日本救急医学会院外心停止(JAAM-OHCA)レジストりに登録された症例を対象とした。通信指令員がバイスタンダーにCPR指示を行った症例を指示あり群に、CPR指示を行わなかった症例を指示なし群と定義した。主要転帰は良好な神経学的転帰を得た患者の割合とし、OHCA後1ヵ月時点のグラスゴー・ピッツバーグ脳機能カテゴリースケール1~2と定義した。研究期間中、全体で51,199例のOHCA患者がJAAM-OHCAレジストりに登録された。このうち、33,745例が本研究の対象となり、指示あり群16,509例、指示なし群17,236例であった。OHCA後1ヵ月の時点で良好な神経学的転帰を示した患者の割合は、指示あり群では指示なし群よりも劣っていた(2.3%対3.0%、 $P < 0.001$ )。患者背景特性で調整した後、通信指令員によるCPR指示とOHCA後1ヵ月時点の良好な神経学的転帰との間に関連は認められなかった(調整オッズ比1.000、95%信頼区間0.869-1.151、 $P = 0.996$ )。本研究では、通信指令員が提供したCPR指示の明確な臨床的有益性は認められなかった。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

## 学位論文審査の結果の要旨

令和6年8月19日

報告番号	医博乙第 1113号	氏名	井上 智頭
論文審査担当者	主査教授	松本美志也	
	副査教授	高瀬 泉	
	副査教授	鶴岡 良介	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
通信指令員による院外心停止に対する口頭指導の効果-日本救急医学会院外心停止レジストリの解析-			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。)			
Effects of cardiopulmonary resuscitation instructions on the outcomes of out-of-hospital cardiac arrest: An analysis of the JAAM-OHCA Registry (通信指令員による院外心停止に対する口頭指導の効果-日本救急医学会院外心停止レジストリの解析-)			
掲載雑誌名 Journal of ACUTE MEDICINE & SURGERY			
第 10 巻 e892 (2023年9月掲載)			
著者 (全員を記載)			
Tomoaki Inoue, Kotaro Kaneda, Natsu Ise, Yasutaka Koga, Takeshi Yagi, Masaki Todani, Takashi Nakahara, Motoki Fujita, and Ryosuke Tsuruta			
(論文審査の要旨)			
<p>本研究の目的は、通信指令員による心肺蘇生法(CPR)の指示が院外心停止(OHCA)の転帰を改善するかどうかを明らかにすることである。2014年6月から2019年12月に日本救急医学会院外心停止(JAAM-OHCA)レジストリに登録された症例を対象とした。通信指令員がバイスタンダーにCPR指示を行った症例を指示あり群に、CPR指示を行わなかった症例を指示なし群と定義した。主要転帰は良好な神経学的転帰を得た患者の割合とし、OHCA後1ヵ月時点のグラスゴー・ピッツバーグ脳機能カテゴリースケール1~2と定義した。研究期間中、全体で51,199例のOHCA患者がJAAM-OHCAレジストリに登録された。このうち、33,745例が本研究の対象となり、指示あり群16,509例、指示なし群17,236例であった。OHCA後1ヵ月の時点で良好な神経学的転帰を示した患者の割合は、指示あり群では指示なし群よりも劣っていた(2.3%対3.0%、<math>P&lt;0.001</math>)。患者背景特性で調整した後、通信指令員によるCPR指示とOHCA後1ヵ月時点の良好な神経学的転帰との間に関連は認められなかった(調整オッズ比1.000、95%信頼区間0.869-1.151、<math>P=0.996</math>)。本研究では、通信指令員が提供したCPR指示の明確な臨床的有益性は認められなかった。</p>			
本論文は、通信指令員による院外心停止に対する口頭指導の効果を検討したものであり、学位論文として価値あるものと認めた。			